

東北アジア通信

モンゴル語辞典とインターネット



東北大学東北アジア研究センター教授
(モンゴル・中央アジア研究分野)

栗林 均

東北アジア研究センターと中国の内蒙古大学蒙古学学院は、2008年に学術協定を締結して以来、『蒙漢詞典』の電子化に関する共同研究を行ってきた。これは、1999年に内蒙古大学出版社から出版されたモンゴル語・中国語辞典『蒙漢詞典 増訂本』をパソコンやインターネットで利用できるように電子辞書化するプロジェクトである。共同研究の成果として、現在センターのホームページにはインターネットで「だれでも・いつでも・どこでも」利用できる「Web版蒙漢詞典」が公開されている。(図1)



図1. 「Web版蒙漢詞典」 <http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/p01/>

「Web版蒙漢詞典」の元となった『蒙漢詞典』は、中国内のモンゴル族が使用する現代モンゴル語の標準的な辞典として定評がある。収録語数は主見出し語と熟語を合わせて5万3千以上の項目を含む大型辞典で、1977年に初版が出版されて以来、収録語彙の豊富さと、信頼性の高い内容によって現代モンゴル語の書き言葉の規範としての地位を確立してきた。1999年には、初版の内容を改訂・増補した「増訂本」が出版され、新たにすべての見出し語に発音記号で標準語の発音が付された。(図2)

モンゴル語の書き言葉は13世紀以来の綴りが基本的に継承されており、それは現代のどの口語(方言)の発音とも大きく異なっている。モンゴル語の学習者は、綴りと発音を別々に覚えなければならないので、単語の発音を辞書で知ることができる恩恵は計り知れない。また、中国内のモンゴル語は多くの方言からなり、方言間の差異も大きい。モンゴル語の標準音(標準語の発音)が制定されたのは1980年になってからのことであるが、現在も普及が進んでいるとは言い難い。『蒙漢詞典』の見出し語に発音が付されたことは、口語の規範として標準音の拠り所となった。

「Web版蒙漢詞典」では、『蒙漢詞典 増訂本』のすべて

の情報を電子化テキストとして利用することができる。Internet ExplorerやFirefoxなどのWebブラウザ上で動作するので、パソコンがインターネットに接続されているだけで使うことができる。検索窓でキーボードのキーを押せば、自動的にモンゴル文字に変換され、モンゴル文字でモンゴル語を検索し、結果が表示される。

電子辞書の利点を生かして、単語の「前方一致」「後方一致」「部分一致」といった検索方式が提供されている。「全文検索」では、中国語の訳語やモンゴル語の用例も含めて辞書の本文をまるごと検索することができる。

「あいまい検索」は、文字の正しい読み方が分からなくても単語を検索できる機能である。モンゴル文字には、字形が同じで複数の音を表す文字が多い。たとえば、子音字のtとdは同じ形であり、kとgも同じ形である。同様に母音字のoとuが同じ形で、öとüも同じ形である。綴りを見ただけでは文字の区別ができないという学習者泣かせの文字ではある。

これはモンゴル人にとっても悩みの種のように、標準音を習得していない多くのモンゴル人にとっては、これらの区別が難しく、辞書を引くのも容易でない。「あいまい検索」では、どちらの文字で検索しても両方の文字がヒットする。正しい読み方が分からなくても、とりあえずいずれかの文字で検索すれば、その字形をもつすべての単語が表示されるので、その中から目指す単語を見つければよい。

「Web版蒙漢詞典」には紙の辞書にはない音声データが付加された。主見出し語約2万6千語のすべてに標準音の録音データを付し、発音記号欄のアイコンをクリックすると単語の発音が再生される。発音記号は一般の利用者にはなじみが薄いと思われることから、発音を直接聞くことができるようにしたものである。

このように、「Web版蒙漢詞典」はモンゴル語の学習者・研究者だけでなく、中国内のモンゴル語使用者が便利に利用できることを目指している。



図2. 『蒙漢詞典 増訂本』
(内蒙古大学出版社, 1999)